



2020年 7月21日
第 7 号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



横地申
第 38 号

「新型コロナウイルス感染拡大防止対策」における **7月21日**
社員の安全を守り、お客さまに安心してご利用いただくための緊急申し入れ団体交渉を行う！②

第5項 「除菌活動」の際に使用するのは「アルコール(エタノール)」とし、社員やお客さまの安全の観点および車両を傷める危険性を伴うことから「次亜塩素酸ナトリウム」は使用しないこと。また、社員やお客さまの安全の観点から「除菌活動」は入区列車を基本とし、走行列車では行わないこと。

《組合》

- ①乗務予備者が作業にあたることはあるのか？
- ②消毒作業行路のようなものを作る考えはあるのか？
また、定例的な行路として確立する考えはあるのか？
- ③走行中の列車で行うリスクから、入区列車で行うべきではないか？
- ④アルコールアレルギーなど、お客さまから申告があったらやめるのか？
- ⑤車両機器への影響の認識はどうか？
- ⑥吊手が破損しお客さまが怪我をした事例が過去にある。薬剤が浸透し数年後に車両部品の破損が懸念される。
メーカーが問題ないという回答した根拠を示していただきたい。
- ⑦駅券売機とホームドア（内側）の洗浄方法はどうか？
- ⑧消毒する場所に依じて、薬剤を使い分けをお願いしたい。

《会社》

- ①予備は臨時に乗務するのが前提で、40条予備の趣旨を損なうものではない。しかし、今後は分からない。2～3人居たらどうなるかはケースバイケースで検討する。
- ②現状では考えていない。必ずしも毎日行うものと考えていない。
- ③工夫して閑散列車を選んでいる。お客さまの目の前でやることはない。リスク回避しながら出来るところでやっていく考えである。
- ④今はそのような申告はない。状況により判断する。
- ⑤本社運輸車両部からメーカーに問い合わせて問題ない確認を取り、支社危機管理本部指示のマニュアルを制定し、それに基づき使用するようになっている。
- ⑥本社からの回答結果のみで、データはない。コロナ禍で厚労省の指針を受け会社としての経営的判断をした。
- ⑦駅券売機に一番いいのは中性洗剤となっているが、消毒箇所によってはアルコールがいい部分もある。ホームドアは中性洗剤である。
- ⑧場所により長所・短所がある。アルコールは社員・お客さまの消毒に優先して回したい。今取るリスク、2～3年後のリスクを考え判断していく。

第6項 第2波・第3波が想定されることから、感染拡大防止のために、各職場に「非接触型体温計」の配備や「テーブルの間仕切り」を設置するなどの必要な対策を講じること。

《組合》

- ①除菌活動はいつまで行うのか？
- ②非接触型体温計の配備はどうなっているのか？
- ③他の鉄道のように、車両の抗菌を行う考えはあるのか？
- ④マスクや消毒液の備蓄状況はどうなっているのか？
- ⑤対策に対して、現場は苦勞している。営業職場で列車の窓閉めに時間が取られている。
- ⑥乗務員区ではリネンの準備で睡眠時間が削られている。コロナが収束したら業者に戻るのか？
- ⑦引き続き職場からのリクエストに応えてもらいたい。
- ⑧引き続き議論や問題があれば、議論をしていきたい。

《会社》

- ①今後の状況を見て継続する。出来ることをやっていく。
- ②6月下旬に各所に1個配布している。質のいいものを提供したいが手に入らない。人数の多い区所には2～3個用意したい考えはある。
- ③現在、当社で検討しているとの情報はない。他社のことを評価する立場にない。本当に効果があるか分からない。厚労省のガイドラインに沿って、出来ることからやっていく。
- ④必要な量は十分にある。今すぐ無くなるものではない。
- ⑤できる列車できない列車がある。時間は限られている。駅では出来る範囲で協力するというスタンスである。
- ⑥コロナを機に、社員の声もあり衛生面を考えて変更した。社員の声に基づき再考もある。
- ⑦安価なものは、現場で用意できる。
- ⑧協約に則り取り扱っていく。

**社員が安全で安心して働ける環境を実現するために
これからも会社と議論を続けていきます！！**